

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

生徒と教職員がともに夢を持ち、それを強い意志に高め、実現に向けて挑戦し、弛まぬ努力を続け、未来社会を創造する。
①知識や技能を習得するだけでなく、習得したものの活用能力、主体的に学習に取り組む意欲を養成。
②意志が強く、自律力と規範意識の高い生徒の育成。
③人や物事に対して誠実で、人権を尊重し、地域社会に奉仕貢献できる生徒の育成。

2 中期的目標

～選ばれる学校づくりに向けて～
1 豊かな行事と学校生活の充実・・・学校行事を通して思いやりや自主性を育む。
2 確かな学力の養成と進学実績の向上・・・生徒が自主的なバランスの良い学習をしっかりと行えるよう、教員の指導力を高め、立命館大学との提携を強化するなど、授業力を向上させるとともに環境整備も進める。
3 国際社会に貢献できる生徒の育成・・・国際社会の動きに関する生徒の興味関心を喚起すると共に、4技能を備えた高い英語力を養成する。
4 地域連携・交流と生徒募集の推進・・・生徒の情操を豊かにする行事に取り組み、生徒を社会に求められる人材として送り出すことによって、地域の学校としての認知を高める。

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○教育活動に関する保護者アンケート結果（H29.11.13～11.24 実施） 保護者アンケートの回答では、「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な評価が80%を超えた項目が、中学8項目、高校11項目（全20項目中）であった。特に高い評価であった項目は「学校行事（文化祭、修学旅行など）は楽しく充実している」（肯定的評価中学95.7%）、「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がなされている」（肯定的評価中学97.2%、高校94.8%）、「部活動や生徒活動が活発に行われている」（肯定的評価高校87.7%）などが挙げられる。 また、「わが子を入学させてよかったと思う」（肯定的評価中学87.1%、高校91.4%）「教職員は、生徒のことをよく考えて指導している」（肯定的評価中学88.6%、高校87.7%）等で高い評価を得られていることから、本校の教育に対して保護者に一定の理解を得られているものと考えられる。</p> <p>○生徒授業評価アンケート結果（第1回：H29.7.10 第2回：H29.11.27 実施） 生徒授業評価アンケート（授業科目別）の回答では、「授業内容に満足している」の項目で肯定的な評価が、中学90.4%、高校88.1%であった。「授業内容はわかりやすく丁寧だ」の項目でも肯定的な評価が中学89.8%、高校85.7%となっており、生徒達は本校の授業におおむね満足していることが窺える。</p> <p>○教員による自己評価アンケート結果（H30.2.5～2.10 実施） 教員による自己評価アンケートの回答では「本校の教育課程に沿って授業を実践している」（肯定的評価93.7%）「教員間の相互理解と信頼関係に基づいて授業を行っている」（肯定的評価87.5%）など授業実践に関しては高い自負を持っているが、研修の機会やそれを活用することに関しては多くの教員が不足していると感じており、今後、研修の機会を増やしていくことが必要である。</p>	<p>①委員会体制 初芝橋本中学校高等学校評価委員会 教育後援会会長（卒業生保護者・地域有識者）・保護者会会長・高等学校2学年保護者・中学校2学年保護者・校長・教頭・事務長</p> <p>②委員会実施日 平成30年3月23日（金）</p> <p>③自己評価の結果に対する評価 ・少人数できめ細やかな指導を行っていることに対し、生活面や進路指導面で安心して学校に通わせることができ、満足しているとの意見があった。 ・実際に生徒を通わせている保護者の満足度は高いので、もっと外部に向けたアピールを強化して欲しいとの意見があった。 ・研修の活用に関して多くの教員が不足していると感じていることに驚いた。教員の資質向上が生徒や保護者の満足度向上にとって重要であるので、初任者研修を含めて研修の機会を増やして欲しいとの意見があった。 ・国際理解、グローバル教育に関して、もっと国際交流ができるような取り組みを増やして欲しいとの意見があった。 ・橋本マラソンへの参加や各クラブの活躍等で地域の学校としての認識は高まってきている。また、挨拶ができる学校としての評価も定着している。今後、さらに地域のイベントへの参加を呼びかけ、地域へのアピールを高めていって欲しいとの意見があった。</p>

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 豊かな行事と学校生活の充実	学校行事の充実と安全・安心な学校生活を送れるための環境整備	ア、生徒主体の「若葉祭」・「体育祭」の運営 自主的に豊かな学校生活を創造する力を養成する。	保護者アンケート「学校行事は楽しく充実している」で肯定的評価80%以上	「学校行事は楽しく充実している」の評価は中学では95.7%と高い評価であったが、高校では若干ではあるが目標を下回った。満足度の向上に向けて改善していく必要があると考える。	生徒会活動を盛り上げ、既存の行事をさらに活発化できるよう取り組む。
		イ、クラブ活動の活性化 運動、文化部共に加入率を高め、クラブ活動を通じての人格形成を目指す。特に中学校のクラブ加入率を高める。	保護者アンケート「部活動や生徒活動が活発に行われている」で肯定的評価80%以上	昨年度に比べ中学生のクラブ加入率は53.1%から71.8%へと上昇し、「部活動や生徒活動が活発に行われている」の評価が中学では81.4%に上昇した。高校ではサッカー、柔道、卓球、ゴルフの4クラブが全国大会で活躍し、87.7%の評価を得られた。	高校クラブにおいて、陸上、女子バスケットボールを重点クラブに追加して競技力向上に取り組む。
		ウ、通学の利便性の向上 スクールバス増便、南海りんかんバスとの連携等により、生徒の通学の利便性を向上する。	保護者アンケート「わが子は通学時間を負担に思っていない」で肯定的回答80%以上	「わが子は通学時間を負担に思っていない」の評価は中学80.0%と目標に届いたが、高校は遠隔地の生徒も多く77.2%に留まった。	スクールバスの新コース追加を行い、通学の利便性を高める。

		エ、寮の環境整備 寮で生活する生徒達の健康で安心な生活のため、寮の環境を整える。	保護者アンケート「わが子は寮の設備に満足している」「わが子は部屋に満足している」「わが子は食事内容に満足している」で昨年度の評価を上回る	「わが子は寮の設備に満足している」「わが子は部屋に満足している」「わが子は食事内容に満足している」のすべての質問で昨年度の評価を上回ることができた。寮の生活環境改善の為、保護者会からの発案で寮生アンケートを実施し、生活環境の改善に努め、食堂の担当者の方も積極的に改善に向けて取り組んでくれている結果であると考えられる。	寮生や保護者の声に耳を傾け、引き続き改善に努める。
2 確かな学力の養成と進学実績の向上	基礎・基本の徹底および主体的に学習に取り組む意欲を持つ生徒の育成	ア、生徒・保護者・教員対象のアンケートの結果を有効活用し、授業改善に努める。	保護者アンケート「わが子は、授業内容に満足している」「教職員は、授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている」で共に肯定的評価 80%以上	「わが子は、授業内容に満足している」の評価は中学 74.2%、高校 74.8%と昨年度より改善してはいるものの目標には届いていない。「教職員は、授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている」の評価は高校では 81.0%と目標に達しているが、中学では目標に達していない。お互いの授業を見合う機会を増やし、授業改善に努め、満足度を高めていく必要がある。	アンケートの結果を有効活用できるように回収から集計、フィードバックまでの期間を短縮するとともに、お互いの授業を見合う機会を増やし、授業改善に努める。
		イ、進学プロジェクトの充実 放課後の進プロ、長期休暇中の講習、勉強合宿等を通じて積極的に学習に取り組む姿勢と確かな学力を養成する。	保護者アンケート「わが子は、積極的に学習に取り組んでいる」「教育課程は、進路希望の実現に対応するものになっている」で肯定的回答 80%以上	「教育課程は、進路希望の実現に対応するものになっている」の評価も中学 82.6%、高校 81.6%と目標を達成しているが、「わが子は、積極的に学習に取り組んでいる」の評価は目標に届いていない。積極的・主体的な学習姿勢の育成に更なる努力が必要である。	進学プロジェクトを大学入試共通テストに対応する形に再構成し、希望進路実現に繋げる。
		ウ、進学実績向上に向け、指導スキルの向上と教員間での目標の共有を目指した企画の推進 新旧高3担任懇談会、進路研究会、外部の教科研修プログラム等。	教員アンケート「進路指導において各自の適正に応じた指導が出来る」で肯定的回答 80%以上	「進路指導において各自の適正に応じた指導が出来ている」での自己評価 84.4%と目標を達成している。	外部・校内での研修の機会を増やし、教員のさらなる資質向上を目指す。
		エ、大学受験に向けた意識向上のための企画の推進 高1) 大学見学会、学部系統別説明会の実施 高2) 夢ナビライブへの参加 高3) 大学別説明会の実施	保護者アンケート「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている」「将来を考える、進路意識を高める指導がされている」で肯定的回答 80%以上	高校での「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている」の評価は 82.1%、「将来を考える、進路意識を高める指導がされている」の評価は 81.3%と目標を達成できている。今後、中学での進路意識向上の為の取り組みを充実させていく。	中高一貫のメリットを活かし、中学段階の早い時期から進路意識を高める取り組みを積極的に進める。
3 国際社会に貢献できる生徒の育成	国際社会への意識向上のための取り組みの実施と4技能を備えた高い英語力の育成	ア、国際社会への意識向上のための取り組みの実施	教員アンケート「国際理解に対する教育は充実している」で肯定的評価が 80%以上	今年度、国際社会に目を向ける取り組みのひとつとして、立命館アジア太平洋大学(APU)説明会を実施するなど力を入れてきたが、目標には到達していない。	APU との結びつきを強化し、意識向上に繋げる取り組みを充実させる。
		イ、英語圏への修学旅行 国際人としての素養を身につけ自立する力を養成する。	充実した修学旅行が実施できたか	中学校のアメリカ修学旅行は事前学習から事後報告会まで充実したものとなった。高校は北朝鮮ミサイル問題の為、国内に変更。	中高ともに英語圏への修学旅行を実施する。
		ウ、語学研修・短期留学の取り組みの推進・強化	各種プログラムへの参加者数の増加	2週間の語学研修に8名、3ヶ月留学に3名、8ヶ月留学に1名)が参加。例年に比べ参加者数を増やすことができた。	より効果的な研修になるように内容を再構築する。
4 地域連携・交流と生徒募集の推進	地域に根ざした魅力ある学校づくり、および生徒募集の推進	ア、地域行事への参加、協力 ・高野山参詣登山、橋本マラソン。 ・吹奏楽部による橋本マラソンでの応援演奏、インターアクト部による地域夏祭り参加協力、放送部による「FM橋本」の番組担当等	地域行事に積極的に参加できたか	クラブ員を中心に、地域行事への積極的参加を進め、高野山参詣登山参加者 20 名、橋本マラソン参加者 134 名であった。次年度以降も参加者増を目指したい。	様々な地域行事を校内で紹介し、参加の呼びかけを行うことで、交流の機会を増やす。
		イ、地域への奉仕 ・運動部による日々の地域清掃。 ・野球部による毎日の林間田園都市駅周辺清掃	「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がされている。」で肯定的回答 80%以上	「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がされている」の評価は中学 97.2%、高校 94.8%と非常に高い。このことが地域からの評価に繋がるように、生徒の活動を積極的に外部に発信していく。	クラブ生だけでなく、一般生徒が参加できる地域への奉仕活動を計画する。